

HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

研究分担者：佐野貴子（神奈川県衛生研究所 主任研究員）

研究協力者：今井光信（田園調布学園大学） 岡部英男（神奈川県衛生研究所）
近藤真規子（神奈川県衛生研究所） 加藤真吾（慶應義塾大学医学部）
須藤弘二（慶應義塾大学医学部） 井戸田一朗（しらかば診療所）
星野慎二（特定非営利活動団体 SHIP） 清水茂徳（東日本国際大学）
杉浦太一（株式会社 CINRA） 市川誠一（人間環境大学）

研究要旨

保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>) の管理・運営を行った。また、本サイトによる情報提供の効果を調査するため、アクセスアナライザーによる利用状況の解析を行った。

年間サイトアクセス数は、2015 年は 186 万件であり、2014 年の 194 万件と比較して 4% 減となった。情報端末別の訪問数では、スマートフォンからは、2014 年は 131 万件（74%）であったのに対し、2015 年は 144 万件（78%）と増加していた。スマートフォン利用者の増加により、当サイト閲覧も年々スマートフォン経由が多くなっており、手軽にアクセスできるようになっていることが示唆された。訪問者別割合は、新規訪問者が 59%、リピーターが 41% で、4 割は複数回利用していることが分かった。月別アクセス数は、2015 年 5 月から 10 月までは前年度を下回っていたが、11 月は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより前年比 40% 増となった。日別訪問数で見ると、一番アクセス数が多かった日は、11 月 18 日の米国俳優感染公表のニュースで 36,946 件、次いで、5 月 28 日のエイズ動向委員会報告で 28,144 件であった。

受検者の HIV 検査情報の入手方法を調査するために、MSM 対象の特設検査会で実施されたアンケート調査結果を解析したところ、約 3 割は当サイトから情報を入手していたことが分かった。また、HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査において、本サイトの利用状況等を保健所 HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約 9 割は当サイトを閲覧したことがあり、約 8 割は HIV 検査相談事業に役立っているとの回答であった。このことから、当サイトは保健所 HIV 検査相談事業に寄与していることが示唆された。

2001 年の開設から 2015 年末で 1,551 万アクセスを超えた。現在も多くの方に当サイトを利用していただいていることから、今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、MSM 向けサイトとの連携や外国籍をターゲットとしたサイトコンテンツを新規作成することで、更なる HIV/エイズの理解促進と、HIV 検査数の増加に貢献していきたいと考えている。

A. 研究目的

ホームページ「HIV 検査・相談マップ」

(<http://www.hivkensa.com>) を運営し、保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する

最新情報、HIV/エイズの基礎知識などの情報を継続的に提供することで、国民の HIV/エイズへの理解を促すとともに、HIV 検査希望者の受検サポートを行う。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査し、より効果的な HIV 検査相談体制を考案する。

B. 研究方法

保健所等HIV検査相談施設および即日検査研究協力クリニック等の最新HIV検査情報やHIV検査に関する基礎知識等について、ホームページ「HIV検査・相談マップ」(PCサイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイト)に掲載を行った。PCサイトは2001年9月に開設し、携帯電話サイトは2003年4月にi-mode版を開設、2004年3月からはすべての携帯電話からのアクセスを可能にした。2009年10月にはPCサイトおよび携帯電話サイトともにリニューアルを行った。2013年にはスマートフォンサイトを開設した。ページ更新作業としては、新年度前に自治体等詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を送付し、3月下旬から4月下旬にかけて定期修正を行った。また随時、新規掲載作業、掲載情報修正作業、検査イベント情報の掲載作業等を行った。

本サイトによる HIV 検査情報提供の効果調査には、Google Analytics を用いサイトアクセス数(年別、月別、日別)、キャリア別、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査した。また、検索エンジンにおける検索用語別の表示順位、問い合わせ内容の調査、特設検査施設受検者へのアンケート調査、保健所 HIV/エイズ担当者へのアンケート調査を行った。

C. 研究結果

1. 新規情報掲載、情報修正等の状況

2015年のHIV検査相談施設の新規掲載は1箇所について行い、他に1箇所の削除施設があったため、本サイトの施設情報合計は2014年と同

じ666箇所となった(図1)。検査イベント情報の掲載依頼は157件、情報修正依頼は345件であった。

2. Google Analyticsによるアクセス解析

PCサイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイトでの2001年からの合計アクセス数は約1,551万件となった(図2)。2015年の年間サイトアクセス数は186万件となり、2014年の194万件と比較して4%減となった。情報端末別の訪問数では、スマートフォンからのアクセスは、2014年は131万件、総アクセス数に占める割合は74%であったのに対し、2015年は144万件、総アクセス数に占める割合は78%となり、2015年のアクセス数は10%の増加となっていた(図3)。一方で、PC経由は18%減、携帯電話経由は24%減となった。スマートフォン利用者数の増加により、当サイト閲覧も年々スマートフォン経由が多くなっており、手軽にアクセスできるようになっていることが示唆された。訪問者別割合は、新規訪問者が59%、リピーターが41%で、4割は複数回利用であることが分かった(図4)。月別アクセス数は2015年5月から10月までは前年度を下回っていたが、11月は米国俳優のHIV感染公表のニュースにより前年度比40%増となった(図5)。日別訪問数で見ると、一番アクセス数が多かった日は、11月18日の米国俳優感染公表のニュース関連で36,946件、次いで、5月28日のエイズ動向委員会報告関連で28,144件、11月24日のエイズ動向委員会報告関連で17,918件であった(図6)。米国俳優のHIV感染公表のニュースでは、前日のアクセス数は5,123件であったが、ニュース当日の11月17日の日別アクセス数は24,702件と前日比約5倍増、翌日の11月18日は36,946件と約7倍増、11月19日は15,059件、11月20日は10,314件であり、本ニュース関連で約9万件のアクセスの増加が見られた。

都道府県別のアクセス数では、東京都が最

も多く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県、埼玉県、兵庫県と続き、ほぼ人口順であった（図7）。

チャネル別のアクセスは、検索エンジンからのアクセスが75%、直接アクセスが14%、他サイトからのアクセスが10%、SNSからのアクセスが1%であった（図8）。参照元サイトを詳しくみると、Googleが一番多く約77万件、Yahoo!JAPANから約55万件であった（図9）。ゲイ向けサイトでは、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置してもらっているサイト「ko-mens.tv」からのアクセス数が一番多く、他のサイトからのアクセスも見られた（図10）。

サイト内の「お問い合わせ」フォームからの問い合わせ内容としては、HIV検査を受けるにあたっての質問（居住地以外での検査希望、検査費用、子供の検査、薬の影響）、受検した検査施設の不安や苦情（職員の対応、注射針、手袋、結果の信頼性、検査返却）、掲載情報等の内容について、性的接触による感染リスクについて、当サイトの紹介・掲載希望、感染リスクから検査までの期間による結果解釈について、HIV陽性判明後の通院・服薬等について等があった（図11）。

検索エンジン（Google、Yahoo!JAPAN、bing）での検索用語別表示順位を調べたところ、「HIV」では1位、「エイズ」では3位であったが、「AIDS」では14位であった（図12）。「AIDS」と「検査」を組み合わせると1位となった。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、2015年9月から2016年2月に特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどこで得たかを聞いたところ、SHIPのホームページが53%、HIV検査・相談マップは26%、クチコミが14%であった（図13）。

全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質

問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所92%、特設検査施設100%であり（図14、15）。「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所77%、特設検査施設95%であった（図16、17）。「当サイトを見て受検した方はいるか」については、「いる」が保健所22%、特設検査施設75%であった（図18、19）。「いる」と回答した保健所、特設検査施設の123箇所中、受検者の50%以上が当サイトをみて受検したと回答した施設が16箇所あった。

D. 考察

年間サイトアクセス数は、2015年は186万件であり、2014年の194万件と比較して4%減と若干減少した。月別アクセス数を見たところ、2015年5月から10月まではHIV/エイズ関連のニュース等が少なかったためか前年を下回っていたが、11月に米国俳優のHIV感染公表のニュースにより前年度比40%増となり、ほぼ前年のアクセス数にまで回復した。米国俳優のHIV感染公表のニュースの前日のアクセス数は5,123件であったが、ニュース当日である11月17日の日別アクセス数は24,702件と前日比約5倍増、翌日の11月18日は36,946件と約7倍増となり、本ニュース関連で約9万件のアクセスの増加が見られた。我が国でもかなりの反響が見られたが、米国では非常に大きな反響となり、米グーグルでのHIVに関する検索結果によると、告白当日は通常の4倍以上の検索があり、告白直後から約20日間で平均より約275万回多い検索が行われたと、Ayersらの論文で発表された¹⁾。HIV/エイズに関して興味を持つニュースが報道されるとインターネット上での検索が増え、アクセス数が増大することが判明し、我が国においては当サイトがその情報検索の受け皿として役割の一端を担っていると言える。

情報端末別の訪問数では、スマートフォン

からは、2014年は131万件（74％）であったのに対し、2015年は144万件（78％）と増加していた。スマートフォン利用者の増加により、当サイト閲覧も年々スマートフォン経由が多くなっており、手軽にアクセスできるようになっていることが示唆された。訪問者別割合は、新規訪問者が59％、リピーターが41％で、4割は複数回利用していることが分かった。常に新しい情報を更新し、リピーターも含めた訪問者数の増加を計っていくことが、閲覧者のHIV受検行動に繋がるのではないかと考える。

参照元からのアクセス数をみると、検索エンジンからのアクセス数が全体の75％を占めており、「HIV」や「エイズ」といった検索キーワードで高順位に表示されることが本サイトへのアクセス誘導に結びついていると思われた。また、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置していただいているサイトからのアクセスもあることから、MSMの利用率が高いサイトにバナーを設置してもらうことで、感染リスクの高い層へのアプローチが可能になると考えた。

サイト内の「お問い合わせ」フォームへの問い合わせ内容では、HIV検査を受けるにあたっての質問、受検した検査施設の不安や苦情、掲載情報の内容に関する質問が多かった。問い合わせに関しては、可能な限り研究班から発信者に返信を行い、正確な情報の提供と過剰な不安の軽減に努めた。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどこで得たかを調査したところ、SHIPのホームページを直接見て情報を入手した方が約5割であったが、当サイトから情報を入手した方も約3割いた。このことから、MSMの方も当サイトを利用してHIV検査を受検していることが分かった。また、全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアン

ケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所92％、特設検査施設100％、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所77％、特設検査施設95％であり、当サイトは自治体HIV/エイズ担当者に認知されており、HIV検査相談事業に寄与していることが示唆された。

当サイトは、Yahoo!ニュースのHIV/エイズ関係記事でのリンク紹介をはじめ、日本赤十字社における献血者への配布文書や自治体サイト等で紹介されており、多方面で効果的に活用されていると考える。

2001年の開設から2015年末で1,551万アクセスを超えた。現在も多くの方に当サイトを利用していただいていることから、今後も正確で最新のHIV検査情報を提供していくとともに、MSM向けサイトとの連携や外国籍をターゲットとしたサイトコンテンツを新規作成することで、更なるHIV/エイズの理解促進と、HIV検査数の増加に貢献していきたいと考えている。

E. 結論

ホームページ「HIV検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)を運営し、保健所等HIV検査相談施設の最新情報やHIV検査に関する基礎知識等の情報を継続的に提供した。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査した。

2015年は約190万回の訪問数があった。検索エンジンではHIV/エイズ関連検索で常にトップページに表示されており、HIV/エイズに関心がある方々に信頼性の高いサイトとして多く利用されている。自治体HIV/エイズ担当者の当サイト認知度は9割以上、事業貢献度は約8割が「ある」と回答しており、HIV検査相談事業に寄与していると考えられる。

Yahoo!ニュースの HIV/エイズ関係記事でのリンク紹介をはじめ、日本赤十字社における献血者への配布文書や自治体サイト等、多方面で紹介されており、当サイトは非常に効果的に活用されていると考える。

引用文献

John W. Ayers et al: News and Internet Searches About Human Immunodeficiency Virus After Charlie Sheen's Disclosure, JAMA Intern Med. Published online, February 22, 2016. doi:10.1001/jamainternmed.2016.0003

F. 発表論文等

1. 論文

- 1) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信 . HIV 無料・匿名検査相談の役割 保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題 . 日本エイズ学会誌、17:125-132、2015.
- 2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾 . HIV 郵送検査の現状と展望 . 日本エイズ学会誌、17:138-142、2015.

2. 学会発表 (国内)

- 1) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信、加藤真吾 . 民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査 . 日本エイズ学会、2015 年 12 月 1 日、東京 .
- 2) 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中晃、川畑拓也、森 治代、岩室紳也、吉村幸浩、立川夏夫、今井光信 . 新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移 . 日本エイズ学会、2015 年 12 月 1 日、東京 .

図1
ホームページの施設情報、検査イベント情報、
情報修正依頼件数

掲載依頼	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
施設情報	645	663	664	666	666
検査イベント情報	111	173	200	177	157
情報修正依頼	379	377	462	591	345

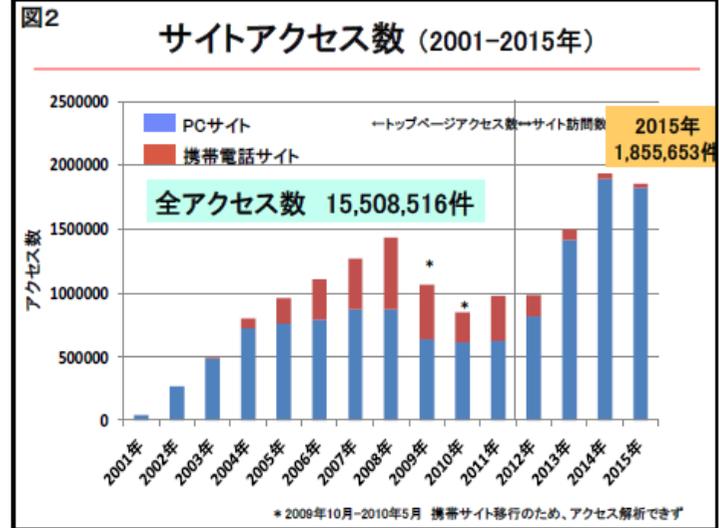


図3
情報端末別訪問数の推移 (2010-2015年)

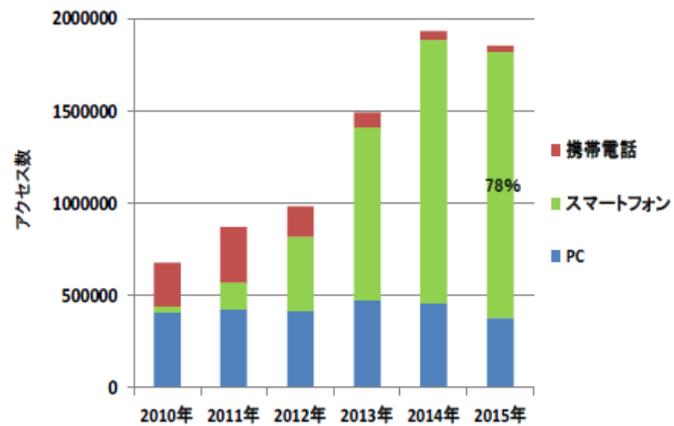
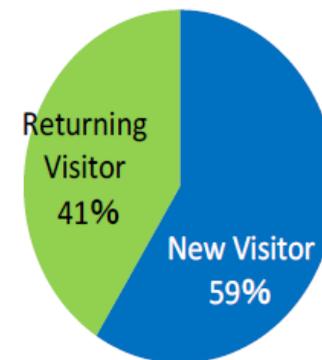


図4
訪問者別 (新規・リピーター) 割合 (2015年)



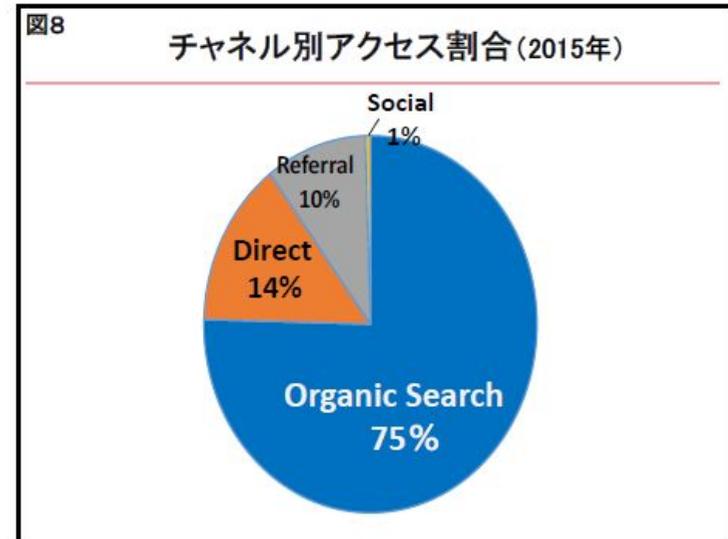
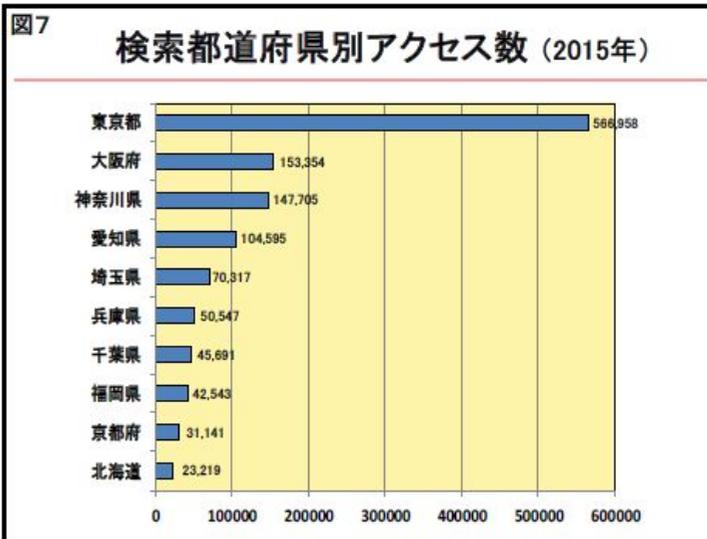
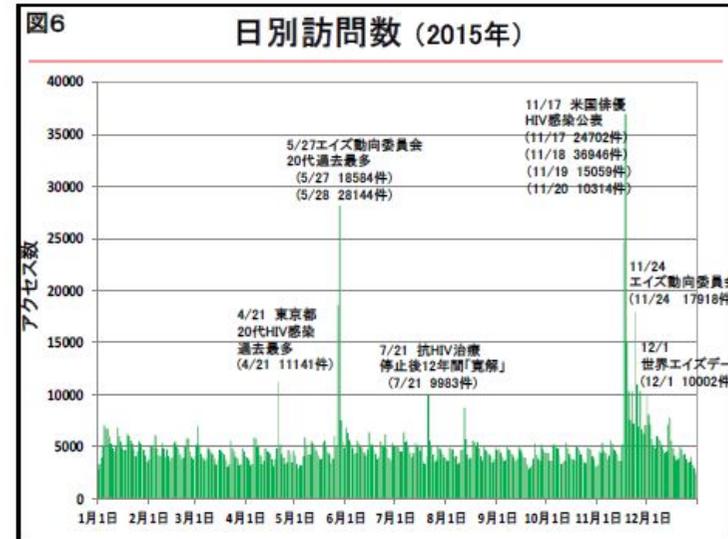
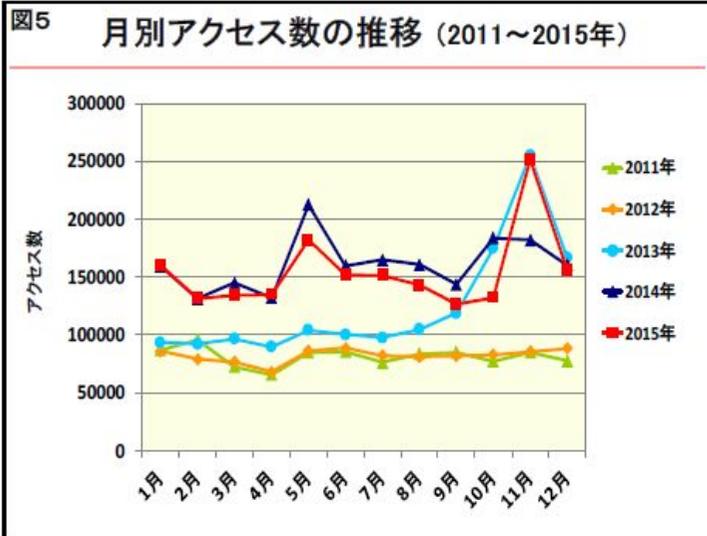


図9

参照元からのアクセス数 (2015年)

	参照元	アクセス数
1	Google 検索	769,653
2	Yahoo! JAPAN 検索	549,740
3	Direct access	260,905
4	Yahoo!ニュース・知恵袋 リンク	61,358
5	はじめての性病検査 リンク	45,926
6	ドコモ 検索	22,406
7	bing 検索	20,292
8	au 検索	8,283
9	HIV感染症(エイズ)の検査・ 症状100問100答	6,389
10	東京都	5,039

図10

ゲイ向けサイトからのアクセス数 (2015年)

	参照元	アクセス数
1	KO MENS.TV	4,008
2	Men's Net Japan	2,679
3	G-men	2,294
4	ハッテンナビ 東京	779
5	HIVマップ	777

図11

問い合わせ件数・内容 (2015年)

2015 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	44件
HIV検査を受けるにあたっての質問 (住居地以外での検査、検査費用、子供の検査、業の影響)	9
受検した検査施設の感想、不安、苦情 (職員の対応、注射針、手袋、検査結果の信頼性、結果返却)	8
掲載情報等の内容について	7
性的接触による感染リスクについて	4
当サイトの紹介(リンク)、掲載希望	4
感染リスクからの検査日までの期間による結果解釈について	3
HIV陽性判明後の通院・服薬等について	3
HIV/エイズの基本的な質問	2
性感染症検査の受検希望	2
保健所の検査体制について	2

図12

検索エンジン 検索用語別表示順位

検索エンジン	検索用語別順位 (2015年12月)			
	HIV	エイズ	AIDS	AIDS 検査
Google	1	3	14	1
Yahoo! JAPAN	1	3	14	1
bing	1	3	22	1

図13

SHIP検査でのアンケート結果

Q. 当検査を何で知りましたか？(複数回答) (n=58)

情報収集手段	回答者数	回答率
SHIPのホームページ	31	53%
HIV検査・相談マップ	15	26%
クチコミなど	8	14%
HIVマップ	6	10%
9モンスター	6	10%
MNJ	1	2%
Mixi	0	0%
HuGs	0	0%
Mens Mixi	0	0%
テレビ・新聞など	0	0%
パンフレットなど	0	0%
電話相談など	0	0%

図14

(2015年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？(保健所)

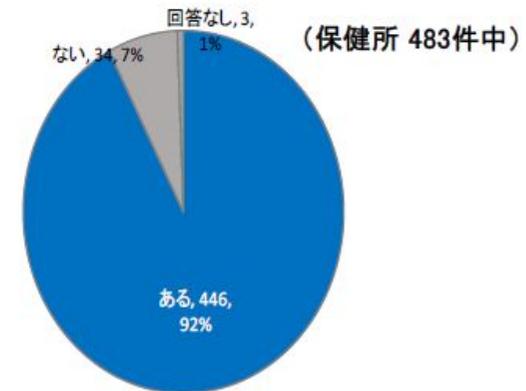


図15

(2015年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？(特設)

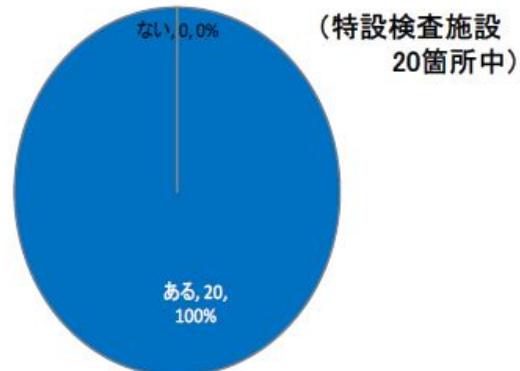


図16

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？(保健所)

